



モエワ★カメイ 74

NO.

●モエワ・カメイとはアイヌ語で「アノタヌキ」のことです。

SEP 2009



あさひやまどうぶつえんニュース
ASAHIYAMA ZOO NEWS

もくじ

ほくは、動物大使

その35 保護か？ 駆除か？

イソシカ……………2.3

特集 イソシカの森……………4.5

飼育研究レポート…6

動物病院VETニュース…7

こども牧場だより…7

主なできごと…8

編集後記…8

イソシカ

Cervus nippon yesoensis



ぼくは、**動物大使**

その35 保護か？ 駆除か？ エゾシカ

エゾシカ

Cervus nippon yesoensis

北海道はほぼ全域に分布するニホンシカの亜種。大半は日高・十勝・釧路・根室・網走など道東に棲む。推定生息数は12万頭。寿命は約15年。

日本に生息する偶蹄目のほ乳類はニホンシカ(シカ科)、ニホンカモシカ(ウシ科)、イノシシ(イノシシ科)の3種。このうち北海道にはニホンシカの亜種エゾシカだけが生息している。

エゾシカの分布



エゾシカ个体紹介

エゾシカの森・大家族をご紹介します!

治夫 ♂15才		トナカイ ♀推定18才	
清野 ♀推定15才		チャッピー ♀推定14才	
まだ ♂1才		ベベ子 ♀1才	
マカロニ ♂1才		ブルブル ♀0才	

オオカミの森にいます

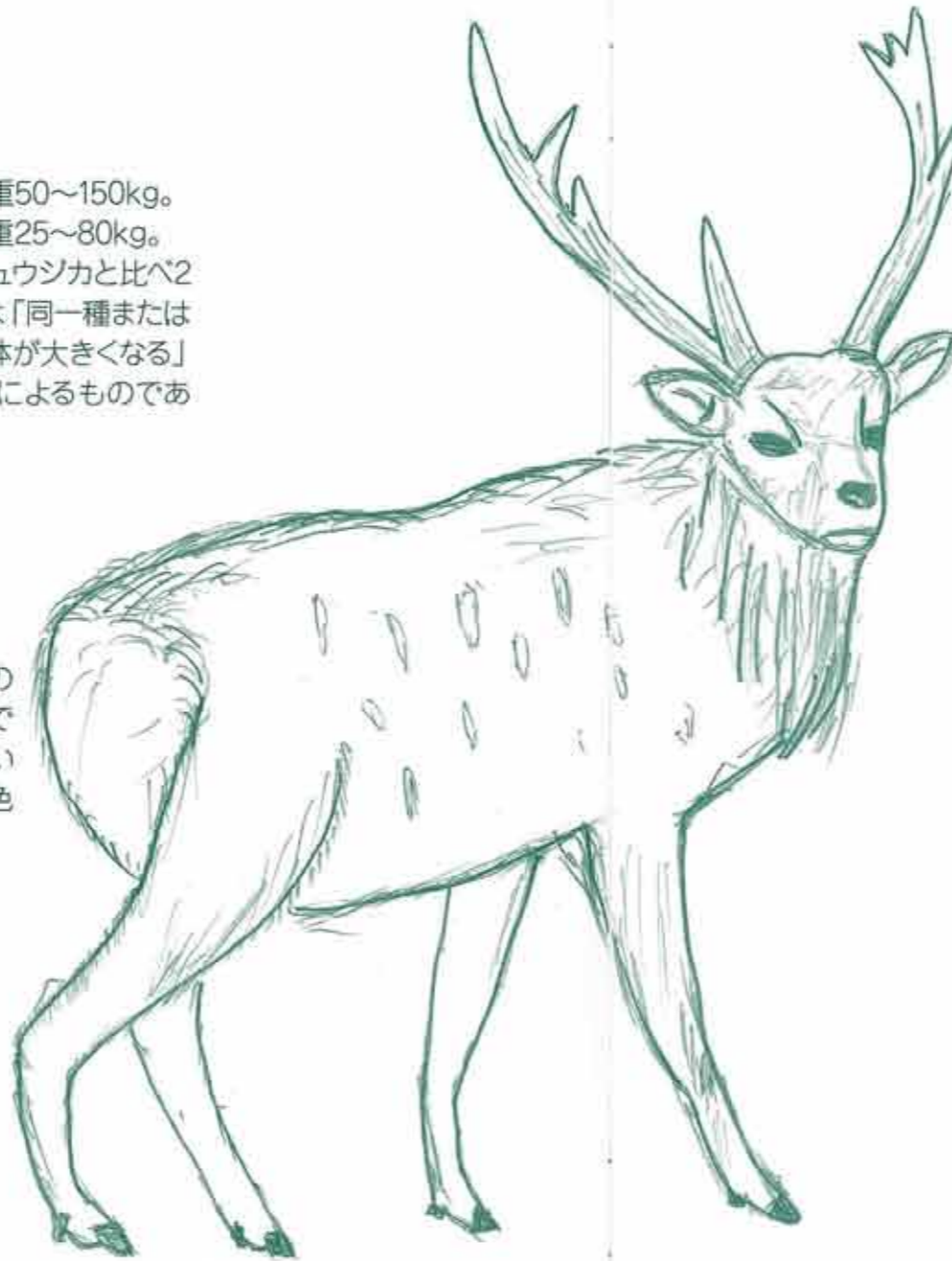
鶴岡 ♂4才		むくみ ♂4才	
-----------	--	------------	--

体

雄は体長90~190cm、体重50~150kg。雌は体長90~150cm、体重25~80kg。奈良公園で有名なホンシュウシカと比べ2倍近い体重になる。これは「同一種または近似種では、寒冷地ほど体が大きくなる」というベルグマンの規則によるものである。

体毛

夏毛は茶褐色に白い点々の模様があり、シカの仲間でも特に美しい。冬毛は白い点々の模様が消え、灰褐色になる。



エゾシカとオオカミと人間の関係

北海道では、エゾシカとエゾオオカミは食物連鎖の関係にあり、雄大な自然の中でバランスよく共存してきました。しかし明治以降、人間の開拓が進みエゾオオカミが絶滅すると、生態系のバランスは崩れ始めました。1990年代以降、エゾシカの急増により、農作物を食い荒らす被害や車との衝突事故が相次ぎ、社会問題となっています。

また、禁猟区となっている国立公園内では、エゾシカが下草はおろか若木の新芽を根こそぎ食べてしまい、若木の成長はまったく期待できない状態です。

アイヌの人々とエゾシカ

北海道の先住民族であるアイヌの人々にとって、エゾシカはなくてはならない存在でした。それは食料としてとても重要だったからです。アイヌ語でエゾシカを「ユク」といいますが、食べ物という意味もあります。肉は食用として、毛皮は防寒着などとして利用していました。

エゾシカに限らず、アイヌの人々は野生動物を狩猟し、神からの「自然の恵み」または「神(カムイ)そのもの」として崇拝しながら共存してきたのです。

角

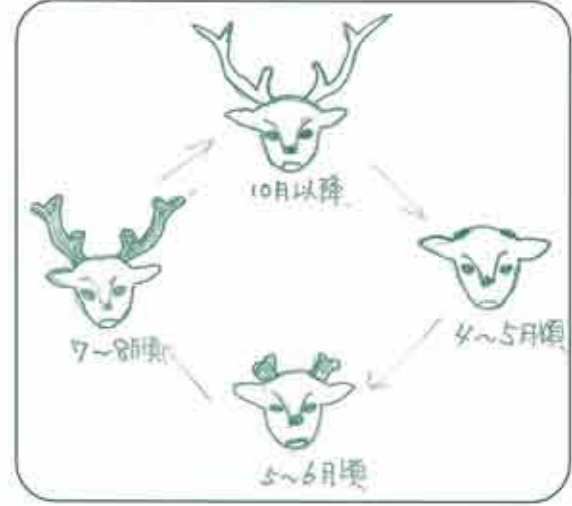
オスだけが持ち、毎年春に自然に落ちる。そして春から初夏にかけて新しく伸び、秋には角は堅くなり完成する。

鳴き声

秋(発情期)にとっても哀愁のある声で鳴く。百人一首では百ある歌の中に、なんと2つも鹿のなき声を歌った句があります。残念ながらエゾシカではなくホンシュウシカですが…。

世の中よ 道こそなけれ 思ひ入(いる) 山の奥にも 鹿ぞ鳴くなる

奥山に 紅葉踏みわけ 鳴く鹿の 声きく時ぞ 秋は悲しき



歯

シカ科の動物は上の門歯(前歯)がない。角質化した上唇の内側と下の門歯で草をはさんで引きちぎり、臼歯(奥歯)で草をすりつぶすように噛んで食べる。



デンちゃんの



一言いわせて!

この写真は知床5湖近くの河川敷の風景です。「さすがよく手入れされているね」都会から来た観光客にはそう見えるかも知れません。川までスノーカーのままで行けます。地上20センチくらいから地上約2メートルまでの空間には、木の幹とハンゴンソウとアメリカオニアザミくらいしか見あたりません。よく見ると木の幹の樹皮も所々剥けています。実はこれディアラインと呼ばれる特徴的な風景なのです。エゾシカによる過度の環境負荷つまり食害が進行している状態です。

エゾシカがいることで森がなくなろうとしています。エゾシカは生きようとしているだけです。どうしてこんなことになってしまったのか?5湖に向かう道中たくさんのエゾシカに出会いました。僕は心の中で彼らに「ごめんなさい」とつぶやいていました。(園長:坂東 元)



特集 エゾシカの森 見どころ紹介

2009年4月オープン! 出来たてほやほやエゾシカの森。その見どころをご紹介します!

エゾシカの森とオオカミの森は姉妹施設

隣り合わせに建つエゾシカの森とオオカミの森。かつての北海道の生態系を示しています。
 実際、オオカミの森は草刈りをしないとオオカミが隠れてしまうほど雑草が生えますが、エゾシカの森はエゾシカが食べたり踏んだりしてしまうので、ほとんど雑草が生えません。肉食獣・草食獣のバランスがとれているからこそ、植物もバランスよく育つということをはからずとも実感させられます。そんな風に両施設を見比べてみるのも興味深いかもしれません。



オオカミの森は草が伸びすぎ。



エゾシカの森は草が育たない。



未来の北海道は果たして?



エゾシカとオオカミ同時に見えるポイント



収穫が楽しみだね!



エゾシカの森農園は電気柵で守っている



今年生まれの“ブルブル”。元気に育てよ!



目が合ったりして



あべ弘士さんの壁画の上に本物のエゾシカが!



個体の紹介。見分けられるかな?



エゾシカを狙っている!?



出入り口 (逆回りも可)



手作りの展示も光ってます!



知床財団さん提供「しれとこシカ絵巻」



知床の現状がよくわかる



ここにも手作りの給餌台が



築山にエゾシカ登頂!



担当者も登頂! もぐもぐタイム中

エゾシカのことは俺たちに聞け!

エゾシカ担当の飼育展示係奥山、佐賀と、動物園で研修中の小学校教諭、脇坂先生です。質問などお気軽に声をかけてください!



左から: 佐賀 真一、奥山 英登、脇坂 文貴

骨格標本展示～ほねほねパネル～

ホネと言われると、「気持ち悪い」という先入観や死んでしまった動物のものを扱うので、あまり見たくないと思う方もいるかもしれませんが。そういったことから、ホネはあまり好かれる物ではないかもしれませんが。それなのに、なぜホネを展示しているのか？みなさんにホネの魅力を紹介していき、読み終わった後には、みなさんは「ホネが大好き」になっていることでしょう。

まず園内で「ほねほねパネル」をご覧になったことはありますか？園内には、フラミンゴ、ペンギン館、ほっきょくぐま館、アライグマ・ヤマアラシ、エゾシカの森、ちんぱんじー館、さる山の7カ所に展示をしています。

さて、ここでいきなり問題です。ペンギンの「ひざ」はどこにあるでしょうか？また、地面についている部分はどこになるでしょうか？

生きているペンギンを見ると、一見わかりづらいと思います。ですが、ホネを見ると、どこに「ひざ」があって、私たちのように「かかと」は地面についておらず、ついてる部分は「ゆび」のみであることが一目瞭然です。

続いて第二問です。エゾシカの前歯はどのようになっているのでしょうか？

まずエゾシカをじっくり観察してみてください。エゾシカが休んでいる時やエサを食べている時に、前歯を見ることができでしょうか？なかなか見づらいというより、ほぼ見えないと思います。

しかし、エゾシカのホネ（頭骨）が近くに展示してあるとどうでしょう。そのホネからは、前歯は、下の歯だけあり、上の歯は全く無いことが分かります。また、奥歯が平らになっている理由は、食べたものを奥歯ですりつぶす役割があることまでわかります。ホネを見てから、今度はエゾシカの食べている姿を観察し、口を動かしていたら「今は奥歯ですりつぶしているんだね」という感じで見る事ができます。すると、違った視点でエゾシカを見ることができると、楽しく動物を観察することができます。

今回は、園内に展示している中の一部だけを紹介しましたが、まだ他の場所にもホネは展示しています。展示しているそれぞれの獣舎で、ホネから新たな発見をすることができます。ホネを見て動物を見て、もっともっと動物に興味をもってもらいたいと思います。

最後に、ホネは死んでしまった動物たちからのメッセージだと私は考えています。生きている時だけでなく、死んでも動物たちは私たちにたくさんのお話を教えてくれています。みなさんはたくさん動物を愛してくれています。これからは「ホネまで愛して」ほしいと思います。



↑上:ペンギンの下半身
下:ペンギンの下半身のホネ



↑「エゾシカの森」に展示しているエゾシカの頭骨標本

(エゾシカ・教育担当:佐賀 真一)

モユクカムイをご覧の皆様、はじめまして。僕は新人獣医師の佐藤伸高といいます。このページでは僕が4月に新人獣医師として赴任してから4か月間に経験したことを中心にお話したいと思います。

まず行ったのは動物たちの糞を顕微鏡で見て動物たちが寄生虫を持っていないかを確認し、寄生虫を殺す薬を投与することでした。このように病気になる前に検査などを行い、早めに予防策をとる考えを「予防医学」と言います。動物園の動物はペットや家畜とは違う野生動物なので治療を行うこと自体が大きなストレスになります。ですが、このように予防をしっかりと行うことで健康を維持することができるのです。

そして初めてウサギのおなかの傷を縫いました。ウサギがケンカをしておなかに傷を負ってしまい、縫うことになったのです。僕はとても緊張しましたが、先輩の指導のもと、なんとか無事に切れた皮膚を縫うことができました。…が、次の日見てみると縫ったところが見事に開いており、先輩の見事な縫いさばきによって縫い直していただきました。

また、治療を行うためには動物を捕まえる必要があります。ウサギやモルモットならば軽く引っ掻かれるぐらいで済みますが、それだけでは済まない動物も動物園にはたくさんいて、先輩に早く早く！と言われながらも動物になるべくストレスを与えないようにスムーズに捕まえられるよう技を磨いています。ちなみにトラやライオン、オオカミなどの猛獣は吹き矢で麻酔を行なうので素手で捕まえるわけではありませぬのでご安心を。初めての吹き矢麻酔も行いましたが、なかなかうまくいかず、三度目の正直ということで3回目になんとか成功しました。とにかく練習あるのみということを痛感させられました。

こんな感じで毎日冷や汗をかきながらも充実した獣医一年目を過ごしています。これからも日々いろいろなことにチャレンジして、一人前の動物園獣医師になりたいと思います。

(獣医・フクロウ・リス担当:佐藤 伸高)



アライグマ保定
早くかつ安全な保定を目指します!!



吹き矢麻酔
成功のためには練習あるのみです。

今年の夏は夏らしい暑さの日が少なかったですね。動物たちにとっては過ごしやすい夏だったのかも知れませんが、やはり暑い日が少ないと変な感じがします。

さて、今回は第2こども牧場を紹介したいと思います!

「第2こども牧場」と書いてある建物の他に、屋外にポニー・ヒツジ・ヤギがいます。屋外にいる動物たちは1日中見たりさわったりできますが、建物の中に入ったことはありますか？館内に入れるのは午後の1時間だけと時間は短いのですが、生命の神秘を見ることができます!!

館内で展示しているのは「卵標本」。これはニワトリとアヒルの卵の中でヒナがどのように成長していくのを見ることができるのです。本物の卵を標本にしているので、「気持ち悪い」とすぐに出て行ってしまおう方もいますが、普段食べている卵が、どのようにしてヒヨコになるのか、不思議じゃありませんか？人間だって、卵(受精卵)が成長して赤ちゃんになるんです。形は違いますが、鳥も人間も「卵」から始まるんです。

卵を温める期間はニワトリが21日、アヒルが28日で、7日間も差がありますが、始まりと終わりの状態はとても似ています。何日目から成長に違いが出てくるのでしょうか？また、この2種では足とくちばしが大きな違いとなるので、その2カ所にも注目して見てみてください。

なお、この展示は夏期開園期間中のみとなりますので、まだ見ていない方はお早めにご覧くださいね!

屋外で飼育しているポニー・ヒツジ・ヤギたちが柵の近くにいるときはぜひさわってみてください。3種それぞれ毛の感じが違います。さわって比べてみてくださいね!柵のまわりにはそれぞれの動物たちの体の特徴やなぜ家畜になったのかなどの看板もありますので、読んでみてくださいね。

(こども牧場担当:佐藤 和加子)



見分けて名前を呼んでみてね



うまれてからのヒナの成長にも注目!

主なできごと

〈2009年〉

- 5月14・15・17日 キジバト人工ふ化(後にヒナ死亡)
- 5月30日 オオタカ人工ふ化
ホッキョクギツネ舎オープン
- 6月5日 アムールトラ「いっちゃん」肝臓ガンのため安楽殺
- 6月6・8日 タンチョウふ化(8日ヒナ2羽死亡)
オオタカのヒナ死亡
- 6月8日 イフトピペンギンふ化
ニホンザル出産
マガモ3羽ふ化
ヒツジの毛刈り
- 6月14日 第1回エゾシカ農園
- 6月16日 ニホンザル出産
コブハクチョウふ化
エゾシカ出産
- 6月18日 キンクロハジロふ化
- 6月21日 「スズメ・カラスを学ぶ会」開催
- 6月24日 ニホンザル出産
- 6月26日 ニホンザル出産
- 7月1日 開園42周年記念日
- 7月6日 エゾモモンガ死亡
- 7月6・7日 コノハズク人工ふ化
- 7月8日 イフトピペンギンのヒナ死亡
- 7月11日 ニホンザル出産
「A8アニマルサミット」開催
- 7月11日 3館連携スタンプラリー～
「昆虫のふしぎな世界展」開催
- 9月23日 7月12日 第2回エゾシカ農園
- 7月20日 「ボルネオへの恩返し」開催
- 7月23日 キングペンギンふ化
- 7月26日 第3回エゾシカ農園
- 8月1～3日 「サマースクール」開催
- 8月8～30日 「鳴き虫展」開催
- 8月9日 第4回エゾシカ農園
- 8月12～16日 「夜の動物園」
- 8月16日 第5回エゾシカ農園
- 8月22日 特別講演会「昆虫の冬越しについて」
キングペンギンふ化
- 8月29日 てながざる館オープン



編集後記

今年の3月に小菅園長が定年退職されました。旭山を草創期から支えてきたベテランの方々もほとんど退職され、あとに残ったのは20代・30代の若手ばかり。みんなまだまだ半人前ですが、若いバイタリティと熱意にあふれています！

9月1日～10月18日まで開催の外来生物展も、若手職員が手分けしたり協力し合い「手作り」で運営している企画です。

モク・カムイも72号から新・編集委員になりました。先輩方が残してくださった財産を引き継ぎ、さらにパワーアップしていきたいと考えていますので、みなさん楽しみに！

(大西)

モク・カムイ No.74 平成21年9月30日

発行所 旭川市旭山動物園 〒070-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104

発行 坂東 元 <http://www5.city.asahikawa.hokkaido.jp/asahiymzoo/>

編集委員 中田 真一・星山 淳・大西 敏文

印刷 株式会社アドス・エージェンシー

〒070-0042 旭川市中常盤町1丁目 ☎0166-22-2794

飼育動物数 (平成21年8月末現在)

哺乳類	46種	253点
鳥類	79種	482点
爬虫類	11種	27点
合計	136種	762点